

## 列状間伐推進モデル事業研修会を実施しました

県南広域振興局では、機械化等による低コスト間伐を普及するため、平成21年度の地域振興推進費により、列状間伐の実証事業を広域局管内2箇所において実施しています。

そのうちの1箇所は、遠野市上鱒沢地区の私有林において実施し、間伐がほぼ完成に近づいた11月16日に現地及び室内において標記研修会を開催しました。

実証事業は、遠野地方森林組合への委託により、列状間伐と定性間伐の間伐後の状況やコストが比較できるように1haの林分のまん中に作業路を開設し、その両側を列状区、

定性区に分け、チェーンソー伐倒 グラップルウィンチ木寄 ハーベスタ造材 グラップル集材・はい積の作業仕組により間伐を実施しました。

研修会には、管内から国・民有林関係者が約40人参加し、列状間伐の列間の劣勢木の取扱いや効率的かつ残存木に傷をつけない木寄せ方法、作業道開設と集材方法など熱心な議論が行なわれました。

列状間伐と定性間伐のコストなどの比較データについては、標記事業における複数の実証試験の実施結果をとりまとめ、12月の研修会で検討し、今後の普及に供する予定です。



間伐実証林分の作業路と間伐実施状況



列状間伐現場における研修状況